

と さか であら  
史跡 鳥坂寺跡

—鳥坂寺の実像に迫る—

八歳春二月丙戌左大臣正一位橘朝臣諸  
兄致仕  
河内國  
山下大里  
遣内  
賜河  
各有差  
甲寅朔  
撰津二國田租戊午遣使撰津國諸寺講經

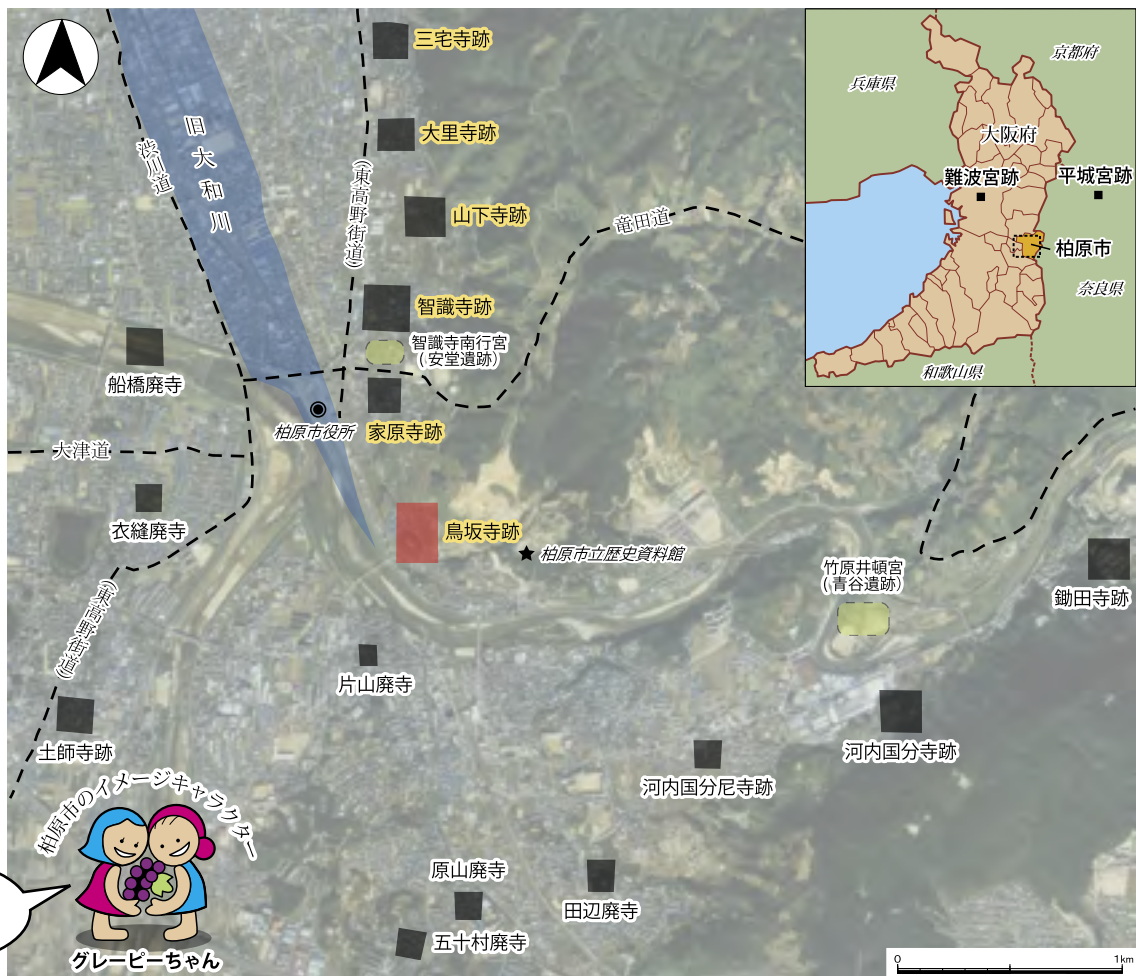


## 古代の柏原の様子

7世紀から8世紀にかけて、柏原市には多数の寺院がありました。中でも有名なのは、奈良時代の歴史が記された『<sup>しよくにほんぎ</sup>続日本紀』に登場する「<sup>かわちろくじ</sup>河内六寺」です。

「河内六寺」とは、天平勝宝8歳（756年）、孝謙天皇が平城宮から難波宮ちしきじみなみあんぐうに向かう際、智識寺南行宮に泊まり参拝した、**三宅寺、大里寺、山下寺、智識寺、家原寺、鳥坂寺**の6つの寺院を総称したものです（表紙）。鳥坂寺は、その中で一番南側にあり、奈良から流れる大和川がちょうど北側に曲がる一際高い丘の上に建っていました。

生駒山地に沿って南北に通じる後の東高野街道、平城宮と難波宮を結ぶ渋川道や竜田道などの街道は多くの人で賑わい、また大和川には、様々な物資を運ぶ船が行き交っていました。大和川をさかのぼるにつれ、遠くに見えていた河内六寺が次第に迫り、山裾に並び建つ寺院や、船上から仰ぎ見る鳥坂寺の様子は、非常に荘厳な景色だったに違いありません。



空から見た柏原と古代寺院（『昭和60年度撮影 国土画像情報（カラー空中写真） 国土交通省』を基に作成）

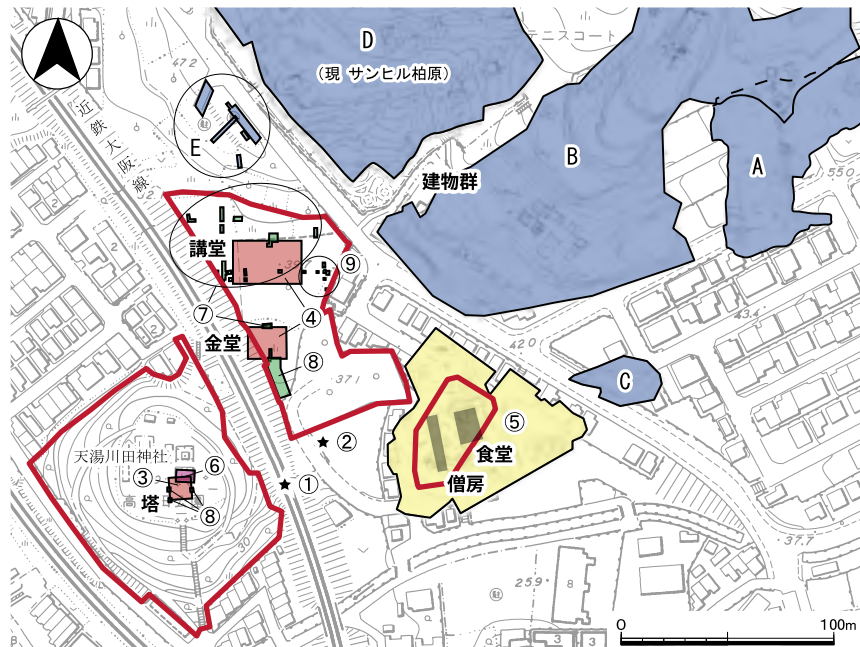


# 鳥坂寺の調査

大正 14 年(1925)から昭和元年(1926)に、大軌電車桜井線(現 近鉄大阪線)の工事が行われ、鳥坂寺跡周辺から多くの瓦などが見つかったとみられますが、その記録は一部しか残されていません(①)。昭和 4 年(1929)に線路東側のブドウ畑から発見された「**鴟尾**」(7 ページ)によって、鳥坂寺は一躍注目される遺跡となりました(②)。

しかし昭和 36 年(1961)、周辺を住宅にする計画が持ち上がります。その時の発掘調査によって、天湯川田神社境内から**塔跡**(③)、線路を挟んだ東側に**金堂・講堂跡**(④)が見つかり、それらの遺構は、非常に残りの良い状態だったことから、開発の計画は中止され、地下に保存されることになりました。その後、周辺の調査で**僧房・食堂跡**と『鳥坂寺』と墨で書かれた**土器**(5 ページ)が見つかり(⑤)、北東側の斜面に**建物群**があることも分りました(高井田遺跡 A～E)。

平成 21・22 年には鳥坂寺跡の保存のための再調査が行われ(⑦～⑨)、金堂の南側で**大規模な造成**がされていることや、金堂を囲む**回廊**などが新たに確認されました。



記号	調査期間	調査主体	調査報告書	調査成果
①	1926.11.21	森下悦治	河内高井田出土「足駄」に就て 考古学雑誌第18巻第6号	大軌電車桜井線(現 近鉄大阪線)敷設時に発見された遺物およびその出土状況について報告
②	1929.6.24/26	大阪府史蹟調査委員会	大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告 第1輯	発見された鴟尾と出土状況の報告
③	1961.8.10～8.30	山本 昭(柏原中学校)	河内高井田・鳥坂寺跡	塔に伴う地下式心柱礎石、雨落溝を確認
④	1962.11.12～12.13	大阪府教育委員会 奈良国立文化財研究所	河内高井田・鳥坂寺跡	金堂跡基壇、講堂跡礎石群を確認
⑤	1983.5.23～1984.3.31 1984.4.2～8.13	柏原市教育委員会 柏原市教育委員会	鳥坂寺-寺域の調査- 鳥坂寺-寺域の調査-	寺域整地層、建物群、「鳥坂寺」墨書土器を確認 寺域整地層を確認
⑥	1989.7.31～8.22	柏原市教育委員会	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 1989年度	雨落溝の一部を確認
⑦	2009.9.14～2010.4.26	柏原市教育委員会	鳥坂寺跡発掘調査報告書	金堂基壇北面階段と講堂礎石の再検出 北面回廊(西部)の礎石を確認
⑧	2010.6.28～8.30	柏原市教育委員会	鳥坂寺跡発掘調査報告書	金堂基壇南面階段・礼拝石・塔雨落溝の再検出 金堂前面(中門跡?)の整地層を確認
⑨	2010.11.1～12.2	柏原市教育委員会	鳥坂寺跡発掘調査報告書	回廊東北隅の礎石(北・東面回廊の交点)を確認

調査位置図と調査一覧表

は史跡指定地(2012.1.24)



# 鳥坂寺の伽藍配置

寺院の主要な建物である塔・金堂・講堂などの位置関係を「伽藍配置」といいます。河内六寺の中で、伽藍配置や関連する他の建物が調査で確認されているのは鳥坂寺だけです。



講堂

金堂

回廊

回廊

食堂

僧房

塔



回廊の礎石—南から



講堂基壇の縁石—北から



講堂礎石近くから見つかった扉金具—北東から



金堂北階段—北東から

階段は4段分見つかっているけど、もともとは7段くらいあったんだって。でもこれだけ残ってたなんてスゴイ!!!



井戸から見つかった墨書土器



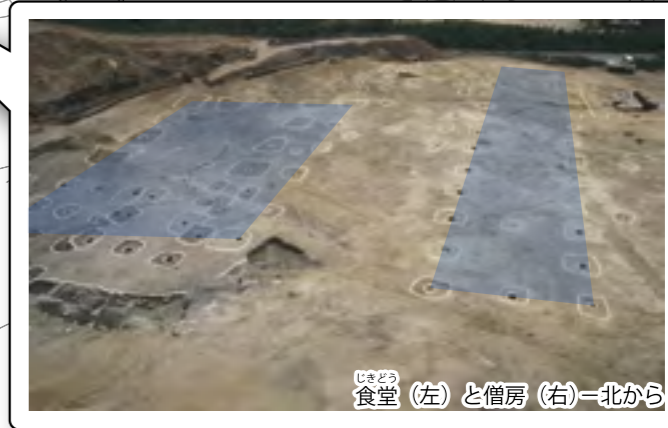
塔基壇を巡る雨落溝—南西から



金堂南階段（右奥）と基壇の様子—東から



金堂の両側の基壇は、基壇の石が倒れた状態で見つかったんだよ。左上にある四角い石は、「押み石」って言って、その石の上に座って金堂の仏様を拝んでいたんだ



食堂（左）と僧房（右）—北から

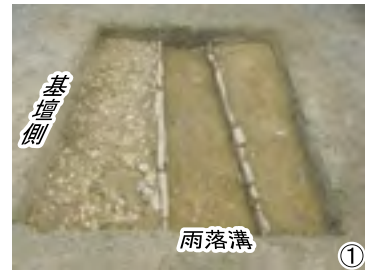
0 50m

鳥坂寺建物位置図（奈良大学文化財学科 2008『古市古墳群旧地形図』を基に作成）

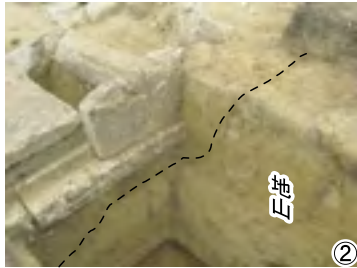


## それぞれの建物

**塔** <sup>ぶっしやり</sup> 仏舎利（釈迦の遺骨またはその代用品）を祀るための建物で、一辺 8.66m の三重塔と推定されています。基壇自体はすでに失われていましたが、塔の中心の柱（<sup>しんぼしら</sup>心柱）を支える礎石や、基壇周囲を巡る<sup>あまおちみぞ</sup>雨落溝（①）が見つっています。



**金堂** 本尊を安置する寺院の中心的な建物です。基壇は東西 18m、南北 15m、高さは推定 1.4m で、地面を掘り込み、そこに加工した<sup>ぎょうかいがん</sup>凝灰岩を据えて基壇を造っています（②）。基壇の上にあった建物の様子は不明ですが、礎石とみられる石が見つっています（③）。また金堂の南側では、石を多く含む盛り土で斜面を埋め立て、地面を平らにしていたことが確認されました（④）。

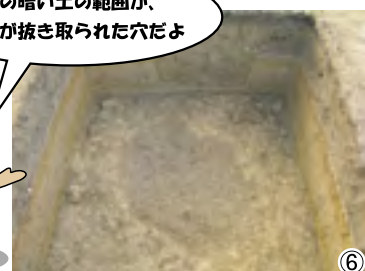


**講堂** 僧が勉強する建物で、基壇は東西 32.3m、南北 20.3m、高さ約 50cm と推定されています。礎石のほとんどが、当時の位置のままで見つか（⑤）、また建物中央には、全国的にも珍しい凝灰岩を使った<sup>しゅみだん</sup>須弥壇が造られていました。



**回廊** 金堂を囲むように造られていた廊下です。見つけた礎石や礎石を抜き取った穴（⑥）の状況から、回廊の北側では、東西 3.2m（コーナー部分は 3.6m）、南北 3.6m の間隔で礎石が置かれていたことがわかりました。

中央の暗い土の範囲が、礎石が抜き取られた穴だよ



**僧房・食堂** <sup>じきどう</sup> 僧が生活する僧房（南北 26m 以上 × 東西 4.7m）、食事をする食堂（南北 15.2m × 東西 10.4m）は、金堂から谷を隔てた南東の場所に建っていました。いずれも地面に穴を掘って、直接柱を立てた<sup>ほったてばしらたてもの</sup>掘立柱建物で、周囲には柵の跡や井戸なども見つっています。

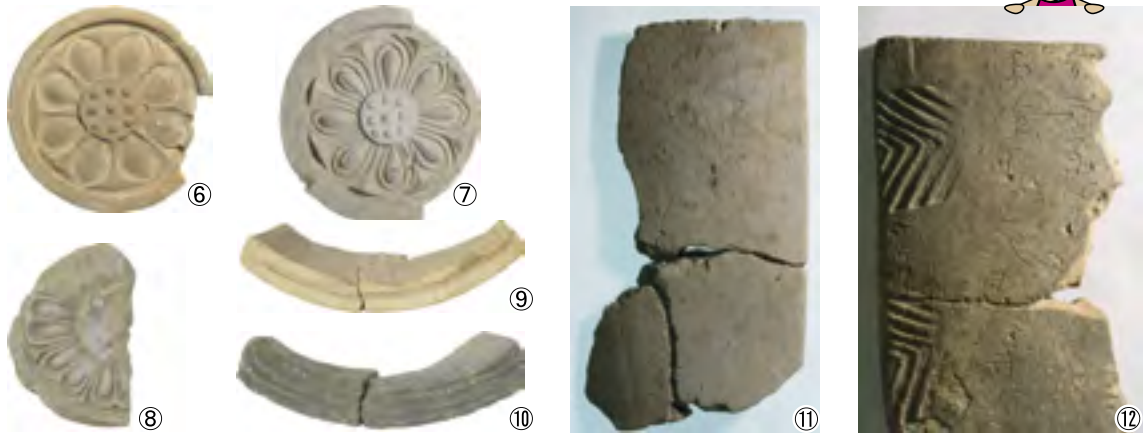


## 出土した遺物（1）

**鴟尾** <sup>しび</sup> 建物の屋根の大棟両端に付ける飾りです。昭和4年発見の鴟尾は、東京国立博物館に展示中で、それを基に実物大の模型が作られました（高さ約 1.3m ①）。他にも破片が出土しています（②～⑤）。



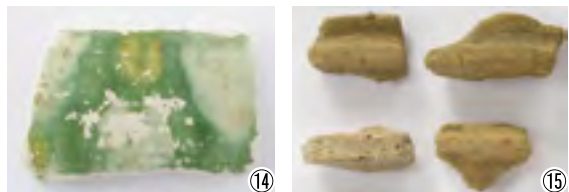
**瓦** 最も多く出土する遺物で、平成 21・22 年度の調査では、瓦だけで約 12000 点見つかっています。特徴的な瓦として、蓮華文様のある軒丸瓦（⑥～⑧）、弧状の線のある軒平瓦（⑨・⑩）や、仏像が描かれた平瓦（⑪）、文字が書かれた平瓦（⑫）などがあります。



『玉作 飛鳥評』  
たまつくりへあすかのこおり  
こ書いてあるんだって

**金属製品** <sup>ちようつがい</sup> 蝶番、仏像の天衣片、台座のほか、講堂では扉に使用された金具（⑬）が出土しています。

**土器** 瓦の次に多く出土し、<sup>さんさい</sup> 三彩陶器（⑭）、土師器の皿、黒色土器などがありますが、ほとんどが小さな破片となっています。また金堂南側の盛土の中から古墳時代前期の埴輪の破片（⑮）が見つかることから、金堂の近くに古墳があった可能性があります。



所蔵・保管…①：柏原市市民歴史クラブ製作の鴟尾模型

③・④・⑥・⑦・⑨・⑩・⑫：大阪府教育委員会・奈良文化財研究所、その他：柏原市教育委員会



## 出土した遺物（2）

せんぶつ  
**埴仏** 粘土を焼き固めて作られたもので、講堂の須弥壇しゅみだん付近から見つかりました。堂内の壁や、須弥壇を飾っていたものとみられます。高さ10cmほどで、①・②とも同じ型で作られていますが、下端の形状が異なり、①は「飾る」、②は「持ち運ぶ」と用途が違っていただけのかもしれませんが。また表面にはうるし漆を塗り、金箔を貼り付けていた痕跡が確認されます。当時の人々の「祈り」を今に伝える貴重な遺物です。



所蔵・保管…①・②：大阪府教育委員会



## 鳥坂寺が語るもの

7世紀後半に創建されたとみられる鳥坂寺は、10世紀頃に廃絶したことが、出土した瓦の状況から読み取れます。それから1000年以上の時を経て、鳥坂寺は、再びわれわれの目の前に姿を現しました。『続日本紀』しよくにほんぎという文献に記載され、「鳥坂寺」墨書土器によって、寺名が確認された非常に貴重な遺跡といえます。また、伽藍配置が明らかで、見つかった金堂の基壇や階段の状態は、全国的に見ても他に比べる例がないほど良好なものでした。

このような鳥坂寺跡の歴史的・文化財的な価値が認められ、平成24年1月24日、国の史跡に指定されました。鳥坂寺は、現代のわれわれに、仏教にかかわった当時の人々の思いや、柏原の歴史を知るための手がかりを与えてくれます。再び灯ったこの古代の光を、現代で絶やすことなく、市民のみなさんと一緒に未来へ繋げていきたいと思えます。

編集・発行 柏原市教育委員会  
文化財課

背景写真：柏原市市民歴史クラブ製作の伽藍模型

